

学校設定科目「ガーデンデザイン」における 作品の設計意図をとらえさせる指導の工夫 —論理的な思考過程を明確にするグループワークを通して—



はじめに

農業班 大竹 真和（高等学校教諭）

教師の願い



目的や環境を的確に分析し、その改善策を講じながら、設計意図をもって造園空間の創造に取り組む生徒

現状

生徒が造園空間の計画・設計を行う際、感覚を頼りに製作しているため設計意図が曖昧

原因

造園空間の目的や環境から具体的な改善策に考えが結び付かない

課題

既存の造園空間から、設計意図を分かりやすく筋道を立ててとらえる

実践

論理的思考過程を明確にする2つのグループワーク

実践例

造園空間の観賞

グループワーク1 形式や手法を正しく理解する言語活動

形式や手法の根拠を考察

グループワークで考察した根拠を説明し合う

形式や手法の正しい理解

手法例①

造園空間の形式

整形形式
非整形形式
実用形式
etc.

手法例②

美的構成手法

借景 フレーム効果
暗示 アイスストップ
etc.

造園空間の形式 2時間×1回、美的構成手法 2時間×3回
計8時間実践（ワークシート1～4を使用）

グループワーク2 思考過程を明確にする言語活動

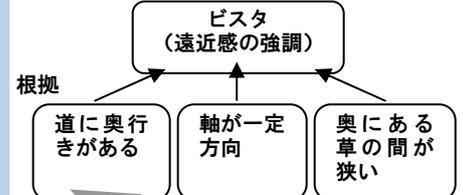
形式や手法の根拠と効果の考察を、図式化

グループワークで図式化したものを説明し合う

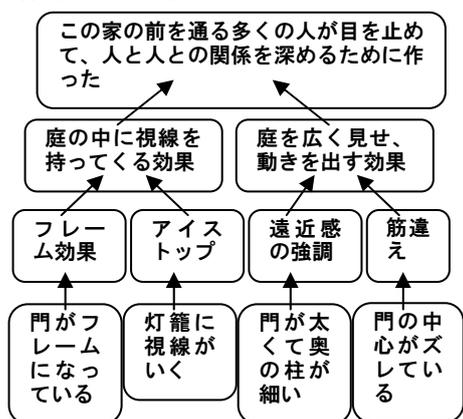
作品の設計意図の明確化

作品の設計意図をとらえるグループワークを計2時間実践

美的構成手法



作品の設計意図



まとめ

成果

- 造園空間を鑑賞する学習に、形式や手法と根拠を考察させ、グループ内で説明し合う言語活動を行うことで、学習した形式や手法を正しく理解することができた。
- 造園空間を鑑賞する学習に、形式や手法に気付かせ、根拠や効果について筋道を立てて考察し、図式化した思考過程をグループ内で説明し合う言語活動を行うことで作品の設計意図をとらえることができた。

課題

- 積極的なグループワークに向けた学習環境の工夫が必要
→グループワークの経験やグループ構成など
- 指導計画の工夫が必要
→内容を読み取りやすいものから取り組ませる
- 根拠をもって考察する指導は効果的であったが、本実践において効果を上げきれなかった。
→他教科での実践の可能性を探りたい

